

山梨県飼料作物奨励品種一覧表

(令和8年4月時点)

I 牧草

◎:最適 ○:適

草種名	品種名(系統名)	早晩生	特 徴	利用方法				適応地域			10a当り播種量(kg)	栽培利用上の注意事項
				青刈	サイレージ	乾草	放牧	平坦地帯	中間地帯	高冷地帯		
イタリアンライグラス	ワセアオバ	早生	越冬前の生育が良好で春早くから利用する時、あるいは刈取回数が少ないときに高収をあげる。水田裏作に適する。	○	○	○		○	○		3~4	①水田裏作や夏作物の後作には早生品種を用いる。 ②サイレージ利用は出穂期前後の刈取りが良質となる。
ハイブリッドライグラス	ハイローラ	中生	越夏性と越冬性に優れた採草用品種。採草地において2~3年は多収、特に秋の収量性が良い。	○	○	○	○		◎	○	2~4	①耐倒性がやや弱いので、1番草の刈取は遅れないようにする。 ②混播草地では、他草種の初期生育に影響の無いように播種量を減らす。
オーチャードグラス	まきばゆうか	早生	越夏性と夏季~秋季の収量性に優れ、秋の葉枯性病害に強い。	○	○	◎	◎		○	○	2~4	①採草利用(サイレージ、乾草)では出穂期頃に刈取りを行う。 ②放牧利用は熟期が進むと嗜好性が低下するので、春早くから行い年間の利用回数を多くする。
	ナツドリ	早生	茎が太く草丈も比較的高い。越夏性が優れる。黒さび病に抵抗性がある。	○	○	◎	◎		○	○	2~4	
	きよは	中生	越夏性と夏季~秋季の収量性に優れ、採草と放牧利用に適する。	○	○	◎	◎		○	○	2~4	
ペレニアルライグラス	ヤツカゼ2	中生	年間収量が多く、越夏性、冠さび病、網斑病抵抗性に優れる。高冷地、中間地で採草・放牧兼用または放牧用として利用できる。	○	○	○	◎		○	◎	2~4	①刈取りや放牧の遅れは再生障害で著しい株枯れを引き起こす。特に、春から初夏にかけての生育最盛期には注意が必要であり、多回利用が不可欠である。
	夏ごしベレ	晩生	越夏性や夏季の収量性に優れ、いもち病にやや強い。放牧利用に適するが、採草・放牧兼用や採草利用も可能である。	○	○	◎	◎		○	◎	2~4	
トルフェスク	ウシブエ	中生	乾物収量が多く、冠さび病にも強い。採草利用および放牧利用ともに適する。	○	○	○	○		○	○	3~4	①茎葉が粗剛なため肉用牛に適する。 ②採草、放牧利用はオーチャードグラスに準ずる。
フェストロリウム	東北1号	晩生	乾物収量が多く、冠さび病にも強い。採草利用に適する。耐湿性に優れ、水田転換畑での利用に適する。	○	○	○			○	○	2~3	①播種翌年の1番草は収量が多く倒伏しやすいため刈遅れに注意する。 ②利用年限は3年程度であり、雑草の侵入が目立つ場合は更新をする。
アカローバー	ケンランド	早生	耐病性強く安定した収量をあげる。冬枯れの無い地域に適し寒冷地には適さない。	○	○	○	○	○	○	○	1~2	①イネ科牧草と混播して利用する。 ②窒素施肥は生育初期以外には必要ない。
シロローバー	カリフォルニアラジノ	晩生	採草放牧兼用草地に適す。収量はやや低いが夏期の収量低下が少なく収量の季節分布がよい。	◎	◎		○	○	○	○	0.8~1	①播種量は少な目にする。 ②その他アカローバーに準ずる。
	フィア	早生	葉が大きく密度も高い。再生力旺盛で多収な放牧向きの品種である。	○	○		◎	○	○	○		
アルファルファ	ネオタチワカバ		乾物収量が多い採草用品種で、病害抵抗性にも優れる。耐湿性も強いことから、水田転換畑での利用も可能である。	○	○	○			○	○	2~3	①1番草は刈取り適期である開花始めまでに刈り取りを行い、2番草以降も刈り遅れないように注意する。 ②アルファルファタコソウムの防除には、早期のミチオン乳液の散布が効果的である。 ③播種の際には根粒菌の接種、またはコート種子を用いる。また、毎年最終刈り後に苦土石灰を施用する。

II 飼料作物

◎:最適 ○:適

草種名	品種名(系統名)	早晩生	特 徴	利用方法				適応地域			10a当り播種量(kg)	栽培利用上の注意事項	
				青刈	サイレージ	乾草	放牧	平坦地帯	中間地帯	高冷地帯			
トウモロコシ	ハイオニア106日(36B08)	早生	乾物収量が多く、雌穂割合も高い。高冷地に適するほか、中間地や平坦地ではイタリアンライグラスとの二毛作に好適である。		◎				○	○	◎	2~3	①除草剤は、播種後鎮圧してからゼザンゾフロアブル等の土壤処理剤を散布する。発芽後雑草が多い場合は、アルファード液剤、ワンホープ乳剤、バサグラン液剤、シャドー水和剤等の茎葉処理剤を散布する。 ②播種は平均気温10℃(ソメイシンの開花期)が適期である。 ③サイレージ利用の場合は黄熟期に刈取りを行う。 ④青刈利用では、播種量をやや多めにして、生育に応じて随時刈取る。
	ゴールドデントKD641	早生	耐倒伏性に優れ、栄養収量の年次変動が少ないため安定した生産が可能である。		◎				○	◎	◎	2~3	
	ハイオニアP2088	中生	乾物収量が多く、雌穂割合も高いため、栄養性にも優れる。		◎				◎	◎	○	2~3	
	スノーデントSH4812	中晩生	乾物収量が多く、雌穂割合も高いため、栄養性にも優れる。		◎				◎	◎	○	2~3	
ライ麦	ダッシュ	超極早生	極早生品種よりも早期に収穫が可能で、トウモロコシの作付期間延長や播種作業の分散化が図れる。	○	◎				○	◎	○	6~8	①耐寒性や耐雪性にやや劣るため、高冷地では早播きに努める。 ②倒伏耐性にやや劣るため、刈り遅れに注意する。 ①耐寒性が強くかなり遅蒔きしても越冬する。 ②後にトウモロコシ等を栽培するときは極早生種を用いる。
	春一番	極早生	分けつ数はやや少ないが、草丈は高く倒伏に強い。	○	◎	○			○	◎	○	6~8	
	キングライ麦	極早生	青刈、サイレージ利用に適す。	○	◎	○			○	◎	○	6~8	
飼料カブ	下総カブ	中生	青首で根部は短円錐型であり、生育日数110~130日を要する。収量は最も多い。	○					○	○		0.2~0.4	①多収を望むには、間引きとその時期がポイントとなるので、播種後1カ月位で行う。 ②す入りが生じるときは硼素入り化学肥料を施用する。